

自立援助ホーム・子どもシェルター  
まなび応援金

2022年度  
事業  
報告書



 朝日新聞厚生文化事業団

本部(東京)  
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2  
TEL 03-5540-7446 FAX 03-5565-1643

大阪事務所  
〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18  
TEL 06-6201-8008 FAX 06-6231-3004

主催  朝日新聞厚生文化事業団

協力 社会福祉法人 カリヨン子どもセンター

協賛 公益財団法人 原田積善会

## 御 礼

愛されるはずの人に傷つけられる虐待。苦しんだ子どもたちが、トラウマなどから回復し、人生を前向きに切り拓けるようになるまでには、物心両面でさまざまなサポートと長い時間が必要だと言われています。

十分な支援が届かないままに10代後半になった子どもたちが暮らすのが、自立援助ホームや子どもシェルターです。15歳を超え、家庭や他の社会的養護施設に居場所がなく、「自立」を強いられた子どもたち。7割以上に虐待を受けた過去があり、勉強どころではない環境で育ったことで最終学歴が中卒、高校中退の子どもが多くいます。学歴の大切さは分かっていますが、日々の生活費や、児童福祉の対象外となった後に備えるため、働くことを優先せざるを得ない現状があります。

この子どもたちに、学ぶことを通して自信を持ち、人生を自分で選べる力があることを知ってほしい。私たちはそう願い、2020年5月に、高校就学や資格取得などを支援する「まなび応援金」をスタートしました。

3年目を迎える2022年度は、「学びたい」と努力する延べ462人に総額5043万9466円をお届けすることができました(手続き中含む)。

この「まなび応援金」をはじめ、日頃より、朝日新聞厚生文化事業団の社会福祉事業にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

子どもたちは、応援してくれる人の気持ちが支えになると語ります。

逆境に立たされ、それでも未来へ踏み出そうという子どもたちが当たり前を支えられる社会の実現のために、今後とも、みなさまのご支援をいただければ幸いです。

結びになりますが、事務局としてご尽力くださっている社会福祉法人カリヨン子どもセンターのみなさまに心から感謝を申し上げます。

朝日新聞厚生文化事業団



## 自立援助ホーム・子どもシェルターとは

さまざまな理由から親と生活することが難しい子どもたちがいます。そうした子どもたちを公的責任として社会的に養育・保護するとともに、養育に困難を抱える家庭への支援を行うことを「社会的養護」といいます。

現在、約4万2千人の子どもたちが社会的養護のもとに暮らしており、受け入れ先は子どもの年齢や状況によって異なります。10代後半の子どもを受け入れ先として「自立援助ホーム」や「子どもシェルター」があります。虐待によって家庭で安全に暮らせなくなった子どもや、児童養護施設を巣立った後に仕事につまずいて生活する場所を失った子どもなども受け入れています。



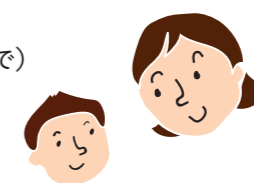
こども家庭庁「社会的養育の推進に向けて」(2023)、子どもシェルター全国ネットワーク会議のHP、全国自立援助ホーム協議会の資料(2023年1月時点)をもとに作成

### 自立援助ホームとは

何らかの理由で家庭にいらなくなり、働かざるを得なくなった子どもたちが安心して暮らせる住まいを提供しています。ここでの暮らしを通して大人との信頼関係や社会性を身につけ、自立できるように援助を行います。児童福祉法に基づく児童自立生活援助事業として、社会福祉法人やNPO法人などが運営しています。

利用者：15～20歳(状況によって22歳まで)  
利用期間：6ヶ月～2年ほど  
定員：6人ほど  
施設数：247カ所

こども家庭庁「社会的養育の推進に向けて」(2023)と全国自立援助ホーム協議会の資料(2023年1月時点)をもとに作成



### 子どもシェルターとは

緊急で居場所を必要とする子どもが、一時的に生活する小規模型の施設です。入居した子ども一人ひとりに担当の弁護士がついて支援します。自立援助ホームと同じく、社会福祉法人やNPO法人などが運営しています。

利用者：10代後半～22歳を想定  
利用期間：2週間～3ヵ月ほど  
定員：6人ほど  
施設運営団体：約20団体

子どもシェルター全国ネットワーク会議のHPをもとに作成



## 自立援助ホーム・子どもシェルターまなび応援金とは

まなび応援金は、自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす子どもたちの幸せのために、就学・就労・自立に寄与することを目的とした応援プロジェクトです。朝日新聞厚生文化事業団が主催し、社会福祉法人カリヨン子どもセンターの協力のもと、2020年春にスタートしました。

幼いころから暴力や育児放棄などにより過酷な成育環境に置かれ、深く傷つきながら自立援助ホームや子どもシェルターにたどりつく子どもや若者がいます。そうした子どもや若者たちは中学卒業が高校中退で社会に出ることが多く、経済的な事情で高校卒業や資格取得が難しい状況にあります。本プロジェクトは、彼・彼女らが「まなび」を通じて自分の未来を選び取る力を育ててほしいと願い、返済不要の2種類の助成(就学金・資格取得金)を行います。

### 就学金 高校などで学ぶ努力を応援

- 高校(全日制、定時制、通信制)などで学ぶための本人の努力を後押しすることが趣旨。
- 4～9月を前期、10～3月を後期とする。
- 6か月ごとに12万円を給付。返済不要。
- 現在学校に在籍しているか、申し込み年の3月末に学校を卒業した人。
- 国籍は問わない。



### 資格取得金 各種資格を取得する努力を応援

- 自立に向けて各種資格を取得する努力を後押しするために費用の実費を給付する。
- 資格取得に向けて必要な費用(授業料、教科書代、備品、交通費など)の実費を以下の基準で給付。  
(ア)資格を取得できた場合は、かかった費用の全額(上限15万円)を給付。  
(イ)資格を取得できなかった場合は費用の7割(上限10万円)を給付。
- 対象とする資格は公的機関が認定するもの、または運営委員会が制度の趣旨に鑑みて認めたもの。  
例：高校卒業程度認定試験、自動車免許、英語検定など。

対象となるのは、自立援助ホームや子どもシェルターで暮らしている方と、暮らした経験のある29歳までの方です。在籍・出身のホームを通じて集まった申し込みは運営委員会によって審議されます。運営委員会は全国自立援助ホーム協議会、子どもシェルター全国ネットワーク会議、社会的養護出身者が運営する支援団体などによって構成されています。

2022年度前期 募集4～9月、内定通知10月、送金11月  
2022年度後期 募集10～3月、内定通知4月、送金5月

## 2022年度の給付報告

まなび応援金運営委員会の審議の結果、2022年度には計462人に総額5043万9466円を給付しました。内訳は以下の通りです。応援金はみなさまのご寄付と朝日新聞厚生文化事業団が拠出しています。

※2023年5月31日時点で手続き中を含む。

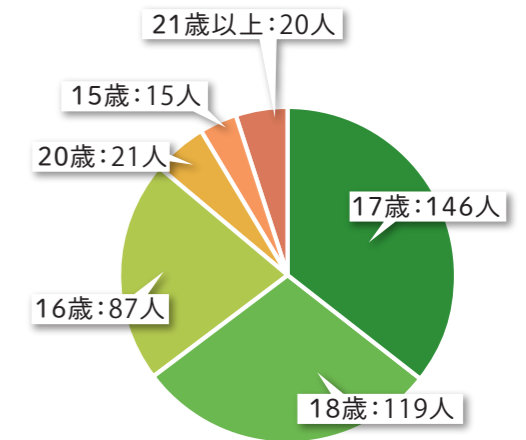
### 就学金(高校などで学ぶ努力を応援)

高校などに在籍する426人の子どもたちに対し、計4564万円の就学金を給付いたしました。在籍する学校は、高等学校全日制、通信制、定時制、高等専修学校です。

### 資格取得金(各種資格を取得する努力を応援)

資格取得を目指す36人に対し、計479万9466円を給付しました。資格の内容は、自動車免許、潜水士、陸上特殊無線技士、IELTS(英語検定の一つ)などです。

応援金を受け取った子どもたちの年齢は、17歳が32%(146人)と最も多く、未成年が5割強を占めています。まなび応援金の交付は、申し込みと同様に自立援助ホームや子どもシェルターを通じて行われ、ホームから応募者に届けられています。ホームと子どもたちには、応援金の使い道や生活状況などの報告をしてもらっています。



### これまでの実績

みなさまの温かいご支援を受け、まなび応援金は2020年度のスタート以来、数多くの子どもたちを支えてきました。2020～2022年度の3か年の累計で、総額1億2551万981円を延べ1130人(就学金1036人、資格取得金94人)に給付しています。ご理解とご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。

年度	給付額	給付人数	取得した主な資格
2020年度	3288万4942円	292人	自動車免許(普通、準中型、二輪、原付)、高卒認定試験、介護職員初任者研修、溶接技能者、TOEFL iBTなど
2021年度	4218万6573円	376人	
2022年度	5043万9466円	462人	

合計 1億2551万981円 1130人





### 日韓友好の仕事が望み

幼い頃から16歳まで暴力の中で育ちました。この世から消えたいと思うことが何度もありました。そんな時、韓国のある音楽に出会ったのです。歌詞がその時の自分にあっていて、前向きになれました。音楽に救われたのです。それを機に、韓国や日韓の歴史に興味を持つようになりました。今は日韓友好の仕事に就きたいと考えています。(17歳)



### 「当たり前」の幸せ願う

家庭でつらい思いをした時に、周りの大人が自分を保護してくれたから、生きてこられました。将来の夢はまだ決められていませんが、仕事に就き、税金を納め、笑顔が止まらない家庭を築きたい。そんな「当たり前のこと」を本気で実現させたいと思っています。また、自分のように困っている人がいたら、助けていきたいとも考えています。(17歳)

### コミュカ育み看護師に

看護師になることが目標です。そのためには、学力だけでなく、コミュニケーション能力を身につけることも必要だと思っています。学校のクラスメイトやアルバイト先で接するお客さんとも、積極的にコミュニケーションをとるよう心掛けています。学業とアルバイト、どちらも支障がでないように、バランスよく力を入れて頑張ります。(16歳)



### 応援金受け登校できた

まなび応援金など周りからの温かい気持ちがあれば、学校にも通えていなかったと思います。こうして「ありがとう」の気持ちでペンを持つこともありませんでした。この3年間、大きな怪我や病気もなく、精神的に大きく成長できたと思っています。本当にありがとうございます。(17歳)

### 児童福祉の仕事したい

自分は将来、児童福祉に関わる仕事に就きたいと考えています。高校生活はあと残り1年ほど。短い期間ですが、しっかりと勉強し、4年制大学に進学したいと思っています。また、高校在学中に漢字検定2級の取得も目指しています。そのための勉強も怠らないように努めていきたいと考えています。(16歳)



# まなび応援金 子どもたちと施設 の思い

申し込んだ子どもたち、支える施設の方々の思いの一部を紹介します。

※掲載内容は申込者の個人情報が特定されないよう一部編集しています。年齢は申し込み時点です。

### 資格取得し漁師目指す

主に大型船舶に乗るために必要な海技士の資格取得に向けて勉強しています。すでに船上で必要な資格をいくつか取ることができました。漁師を目指しており、実際に漁船に乗る実習を行うこともあります。通っている学園を卒業したら、自分にあった漁船に乗り、学んだことを仕事にいかしていきたいと思っています。(19歳)



### 将来の希望語り始める

「一番苦手なのが学校」という子どもがいます。にもかかわらず、高校卒業を目標に、単位取得に向けて努力を続けています。以前は未来を語る事ができませんでした。それが最近では、将来の希望などについても話せるようになってきています。時間が経っても卒業できるよう、静かに後押ししていきたいと思っています。

(自立援助ホーム・ホーム長)



### 給付受け税理士目指す

全日制高校に無遅刻無欠席で登校している子どもがいます。行事や部活動にも熱心に取り組んでいます。卒業年度の現在、税理士になる夢を実現するため、専門学校への進学を目指し、学業に励んでいます。応援金の給付を受け、お金の心配をすることなく、専門学校進学への夢に向かって進んでほしい、と願っています。

(自立援助ホーム・ホーム長)



### 就業へ自動車免許取得

シェルター退所後、生活保護を受けながら一人暮らしをしてきた子どもがいます。学業とアルバイトを両立させ、定時制高校を卒業できました。また、かねてから希望していた、子どもに関わる支援団体への就職も決まりました。現在は通勤のため自動車免許取得に向けて励んでいます。応援金が自立の支えになっています。

(子どもシェルター・ホーム長)



### 短時間バイト探せない

毎日休むことなく、片道1時間かけて高校に通っている子どもがいます。しかし、登下校にかかる時間が長いので、平日に短い時間雇ってもらえるアルバイトがあまりありません。このため、定まった収入が見込めず、苦勞しています。この子が安心して勉学に励むことができるよう、応援金の給付を希望しています。

(自立援助ホーム・ホーム長)





# 学び支える「応援金」 子どもの心まで育む

自立援助ホーム「KCカルム」 ホーム長 本間征二さん

(インタビュー・構成：河井 健)



親からの虐待などが理由で家庭で暮らせなくなってしまった子どもたちの居場所が「自立援助ホーム」です。全国自立援助ホーム協議会によると、北海道から沖縄まで全国に約250のホームがあり、原則15～20歳の子どもたちが働きながら学んだり、自立に向けて共同生活を営んだりしています。協議会役員で、北海道釧路市にある「KCカルム」ホーム長を務める本間征二さん(48)に、ホームでの日常や「まなび応援金」がどのように役立っているかをうかがいました。

保護者がいなかったり、家庭に困難を抱えたりする子どもたちの居場所として、児童養護施設は時々見聞きします。自立援助ホームは児童養護施設とどこが異なるのでしょうか？

両者には似た部分もあります。ただ、児童養護施設への入所は児童相談所の「措置」によって決められるのに対し、自立援助ホームは最終的に子どもたちがホームと利用契約を結んだうえで入居します。対象となる子どもたちの年齢も、児童養護施設は原則として1歳から18歳までですが、自立援助ホームは15～20歳が基本。幼児を含めた幅広い年齢の子どもたちが対象の児童養護施設は、児相が介入した虐待案件のニュースなどで取り上げられることも少なくなく、よく見聞きするのかもしれませんが。

こども家庭庁の資料では、児童養護施設は全国に600カ所以上あり、2万3千人を超える子どもたちが入所しています。一方、全国自立援助ホーム協会によると、自立援助ホームは247カ所で入居者は1000人余り(2023年1月時点)。施設で過ごす平均期間も児童養護施設は5年以上ですが、ホームは1年ほどと短いんですね。



KCカルム

はい。ホームは義務教育を終えた子どもたちを対象に、「保護」というより「自立」を目指しています。複雑な家庭で育てられ、愛着面での課題や自尊心の低下、引きこもりといった二次障害を抱えて入居してくる子どもたちも目立ちます。

そうした入居者に丁寧に寄り添い、「安心当たり前の生活ができる場所」であるホームで、就労や就学を含めたさまざまな面でのサポートをしつつ、「育て直し」をしていくのが私たちの役割なんです。

本来は家庭こそが「安心当たり前の生活ができる場所」だといのですが……。

そうですね。しかし、残念ながらホームへの入居理由の約40%を「父母からの虐待」が占めています。これは入居直前だけでなく、過去も含めた数値です。また、「父母の離婚」も約15%に上ります。入居までの長期間、不安定で適切ではない養育を受けてきたケースが少なくありません。そうした環境で過ごすうち、「自分は誰からも必要とされていない」「自分の意見は決して受け入れてもらえない」といった思いを抱えてしまう子どももいます。

自立援助ホームは「当たり前の生活」「主体性の保障」「退居者支援」の三つを大切にしていると聞きました。

その通りです。過酷な養育のもとで暮らしてきた子どもたちに、安心・安全な生活環境を保障することがホームのスタート地点です。そのうえで「自分の存在はしっかりと受け止めてもらえるのだ」と感じてもらい、自らを大切に思う気持ちが育まれるようサポートしていきます。また、困難を抱えた家庭では、「自分で選び、決定する」「失敗から学ぶ」といった子どもの権利が保障されにくく、結果として自立が妨げられがちになってしまいます。ホームへの入居は最終的にホームと子どもが契約を結ぶことで決まると説明しました。このことは「自分で選び、決定する」、つまり、主体性を発揮する第一歩になるのです。

近年ではとりわけ「退居者支援」の重要性が高まっているそうですね。

子どもたちはやがて、社会に出て行きます。ホームにいる時にはある意味「守られて」いますが、出て行った瞬間にそうではなくなる。困った時、社会や地域、親などに頼ればいいのですが、難しい退居者もいます。ですから、ホームを巣立つ際、「社会に出てからも、いつでも頼っていい。私たちは決してあなたを見捨てない」というメッセージを伝えていきます。入居中はもちろん、退居後も「心の安全基地」であることを目指しているのです。

ホームの事業主体は都道府県や政令指定都市ですが、実際の運営は民間が担っているとうかがいました。本間さんは釧路市内の自立援助ホーム「KCカルム」のホーム長を務めるとともに、施設を運営する一般社団法人ココロミクラフティの代表理事でもあります。

法人を立ち上げたのは2017年春です。その年の秋に最初の自立援助ホームKCホームズを釧路市内に開所しました。KCカルムは翌年春の開所です。KCホームズは女子専用で定員6人、KCカルムは男子専用で定員12人。2023年



バーベキューを楽しむ入居者ら

1月時点で、入居者はKCホームズが17～20歳の4人、KCカルムが16～20歳の10人です。2022年末までに、両施設あわせて20人がホームを巣立っていきました。法人名である「ココロミクラフティ」の「ココロミ」には「何でも試みる」「心を見る」、クラフティには「子どもとスタッフ、地域が一緒になって何でも創り上げていく」という意味が込められています。

両施設の子どもたちは、どんな生活を送っているのでしょうか？

計14人のうち、高校や専門学校、大学に通っている入居者は6人。その子たちも含め、ほぼ全員がアルバイトをしています。光熱費や食事代などに充てられる月額3万円の利用料は、働いて自ら賄ってもらうのが基本なんです。少なくともスタッフ1人が24時間365日、施設にとどまりサポートしていますが、アルバイトと学業の両立は大変です。ですが

ら、就学や資格取得を支えてくれる「まなび応援金」は本当にありがたい。これまでに応援金を得ながら大学進学を目指したり、車の免許を取ったりした子どもが何人もいます。

応援金に支えられて自立を果たしたり、果たそうとしていたりしている子どもたちは、全国から寄せられる応援の気持ちをどのように受け止めているのでしょうか？

応援金を得て大学に進み、心理学を専攻している子どもがいます。「さまざまな助けがあって学べている。将来は自分のような子どもたちの役に立ちたい。社会に恩返しをしたい」と感謝していました。また、かつて入居していた子どもが車で遊びに来てくれたことがあり、「当時、応援金に助けられて運転免許を取得できた」と振り返っていました。この子には学習障害(LD)があり、何度も試験に落ちていたのです。釧路市のような地方都市では車がないと働けないし、そもそも暮らしていけません。子どもたちは応援金を知り、「自分は誰かに理解され、支えてもらいうる存在なのだ」と感じるようです。応援金は就学や資格取得のための「お金」ですが、同時に、心を豊かに成長させてくれる役割も担っていると思っています。

最後に「まなび応援金」を通じて子どもたちを支えて下さっているみなさんにメッセージをお願いします。

心から感謝申し上げます。ホームは近年、急増しています(※2023年5月時点で272カ所)。それだけ支援が必要な子どもがいる、ということの裏返しです。ホームの子どもたちはかつて、主に就職を目指してきました。ですが、今は未来の選択肢が多様化しています。さまざまな夢を叶えられるよう、ぜひ今後ともお支え下さい。もう一つ、お願いがあります。子どもたちの人生はホームを出てからのほうがずっと長い。私たちもサポートを続けますが、社会や地域のみなさまにも支えていただきたい。応援金をきっかけに、ホームや退居者への理解が広がれば嬉しいな、と感じています。

入居者の1日	
7:00～	起床・入浴・朝食
8:30～	出勤
9:00～	勤務開始
16:00～	退勤
17:00～	夕食
18:00～	自動車学校
21:00～	ホーム帰宅・夜食・談話
22:30～	自室にて余暇
23:30～	就寝準備
24:00～	消灯・就寝

運転に関わる仕事を目指しアルバイトをしながら自動車学校に通っています

※就学などの状況によりスケジュールは異なるので、上記は一例

# まなびを応援する **輪** を広げるために

## 増える利用者

自立援助ホームや子どもシェルターに入居する子どもの多くは、小さい時から虐待を受けてきたり、ヤングケアラーとして家族のケアに追われてきたりなど、厳しい養育環境を経ています。

このような立場の子どもにとって、「高校に行く」「自由に夢を描く」という選択肢は、まだ、当たり前なものではありません。

ホームに入居し、安全な生活の中で目標が芽生え、一度はあきらめざるを得なかった「まなび」に、再び挑戦をする子どもたちからの申し込みは、毎年増え続けています。

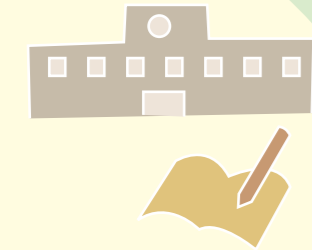
## Challenge!



## 自分を好きになりたい

父親や周りの人から言葉の暴力を受け続けてきたはるかさん(仮名)は、中学時代は怖くて行けなかった学校に、今では毎日通えるようになったと言います。高校への入学が決まってからは、「自分を変えたい。好きになりたい」と考え、努力を重ねています。

自身の努力によって、苦手だった勉強も「好き」に変化し、学校も「楽しい」に変化しました。



## 自分のように困っている人を助けたい

はるかさんは、教師になり、自分のように苦しい思いをしてきた人に手を差し伸べ、希望を与えたいと考えています。そのために、教育学部のある大学への進学を目指し、高校での学びに励んでいます。

## 気持ちのリレー

「自分が生きているのは、周りの大人が保護してくれたおかげ。自分のように困っている人がいたら、すぐに助けたい」  
「今までまなび応援金にとっても助けられた。困っている後輩のためにも、まなび応援金が続くことを応援したい」  
はるかさんのように、自分と同じように困難な状況にいた人を、今度は自分が応援したい、この活動が続くことに自分も役立ちたいと考えている人が多くいます。

こういった経験者の思いをもとに、2023年度には「まなび応援フォーラム」の開催を予定しています。自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす若者などに向け、まなび応援金を利用して夢に挑戦をし、未来を切り拓いていった先輩の体験や声を届けるものです。

まなび応援金を利用してくれた子どもの気持ちを次世代につなげ、子どもたちが、たくさんの選択肢の中から、自分の人生を自分で選び、それにむかって当たり前努力できる権利が守られる社会の実現にむけ、ご支援くださるみなさまとともに、今後も取り組んでまいります。

## — ご支援・ご声援をありがとうございました —



2022年度  
自立援助ホーム・子どもシェルター  
まなび応援金 事業報告書

2023年6月15日発行

発行者 社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

執筆協力 河井 健

デザイン・イラスト かえるぐみ